

経営比較分析表（令和元年度決算）

福島県 白河地方広域市町村圏整備組合

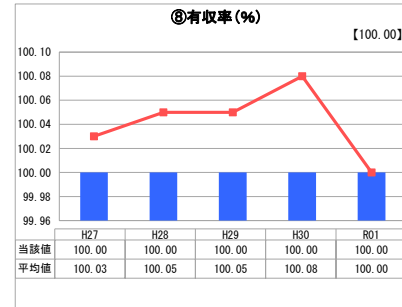
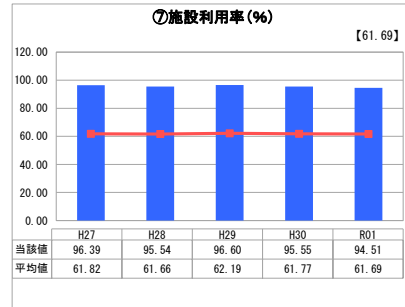
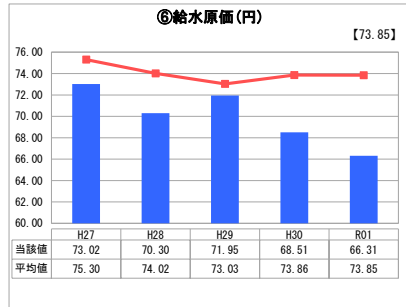
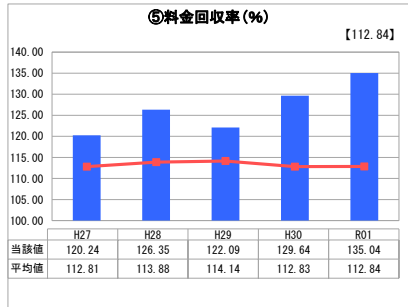
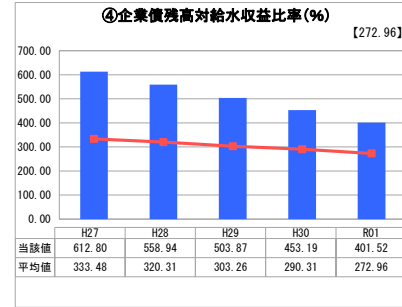
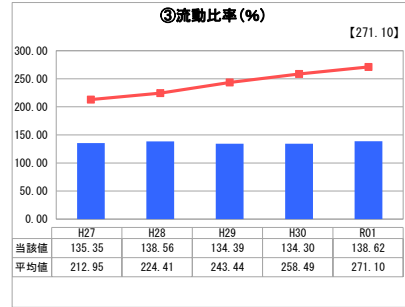
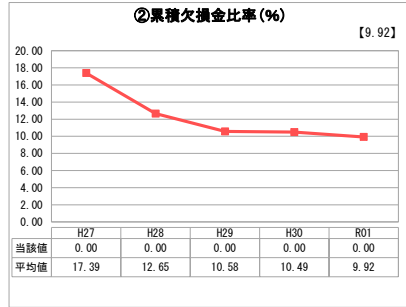
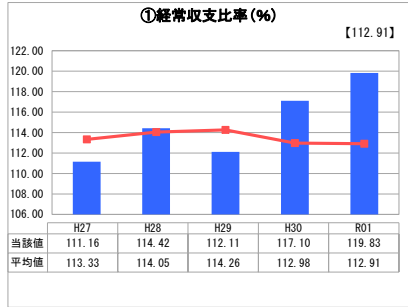
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.94	94.74	0	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
116,537	371.75	313.48

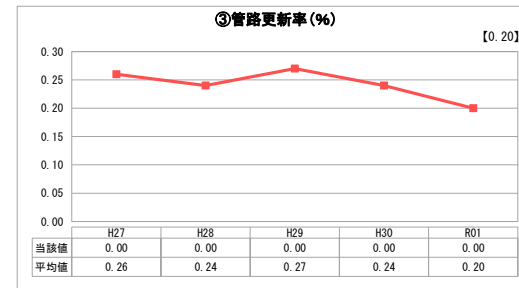
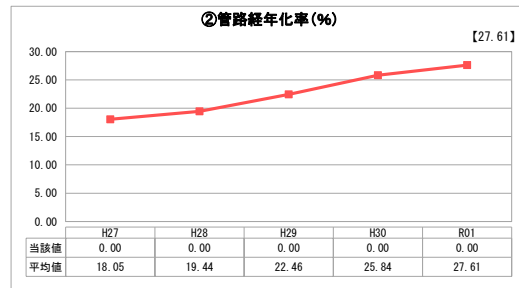
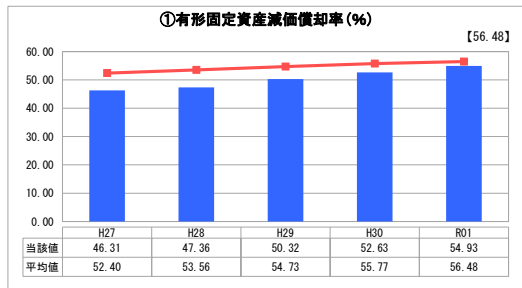
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、収支黒字を示す100%以上であることから良好と言える。② 累積欠損比率は0%であり、欠損金は発生していない。③ 流動比率は、100%以上であるが、全国平均値を下回っていることから、今後、預金の減少に注意する必要がある。④ 企業債残高対給水収益比率は、全国平均値を上回っており、企業債残高が多いことを表している。当組合は平成13年度の供給開始から19年を経過したところであり、全借入額に対する償還済みの割合は69.0%である。⑤ 料金回収率は、供給単価が給水原価を上回っていることから良好と言える。⑥ 給水原価は、前年度比較では下回っており、全国平均値を下回っている。⑦ 施設利用率は、前年度比較では下回ったものの、全国平均を上回っており、施設が効率的に利用されていると言える。⑧ 有収率は100%であり、当組合の供給条例における責任水量（有収水量＝配水量）によるものである。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、全国平均値を下回っているものの、今後、法定耐用年数を超える施設が増加していくことから、比率の上昇に注意し、施設更新を検討していく必要がある。② 管路経年化率は0%であり、管路の老朽化はみられない。③ 管路更新率は0%であり、管路の更新は行われていない。

全体総括

経営の健全性・効率性については、累積欠損もなく、経常損益等の指標からは良好な状態といえるが、短期的な支払能力をみると、預金の減少に注意する必要があるため、今後、一層の経費節減を図り、企業債の償還や施設修繕・更新等を踏まえ、利益の確保に努める。
老朽化の状況については、管路の老朽化はみられないものの、監視制御設備等の更新時期に入ったことから、中・長期的な修繕・更新計画を精査しながら、施設の延命化、適切な維持管理に取り組む。